

## 小中高連携「科学大好きスクール」コラボレーションに参加して

11月11日(土)さいたまスーパーアリーナにて、小中高連携「科学大好きスクール」が開催され、本校も代表者3名が参加しました。参加形態は、今年度本校で実施しているSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)の成果などを、ブースセッションで発表、演示実験するというものでした。生徒達にとっては、初めて大勢の人たちの前で発表するという経験でしたが、一生懸命かつ堂々と発表を行っていました。

発表の内容は、今年度7回かけて行った『極限物性の不思議な世界』(日本大学理工学部物理学科と連携講座)で学んだことを模造紙にまとめ、その概略を説明するものでした。また、演示実験では、液体窒素を使用して、膨らんだ風船をしぼませる、マシュマロを冷却して食べる、ゴムボールを冷却してかなづちで割る、液体酸素を観察するなどの演示をしました。

### 「科学大好きスクール」コラボレーション見学の所感

11/11(土)、さいたまスーパーアリーナの「科学大好きスクール」コラボレーション・ブースセッションの会場は、熱気に包まれていました。見学に訪れた観客の方々が所狭しと行き交う中、各高校の生徒達は、それぞれに工夫を凝らした発表・演示実験に一生懸命でした。

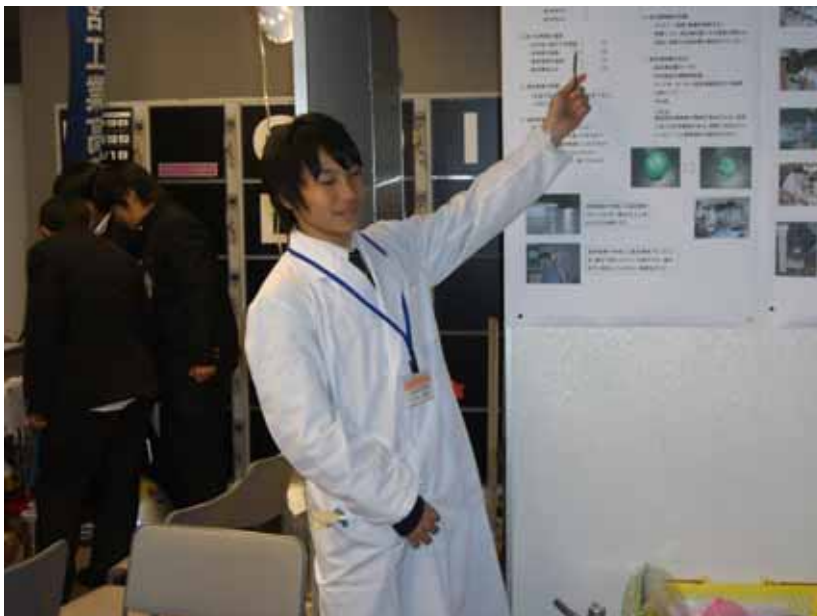
そのような会場の一画に、我が川口高校のブースがありました。白衣を身にまとった今西・片山・高橋君の姿は、まさに未来の『科学者』を彷彿とさせ、学校で見るよりも一回り大きく見えました。

液体窒素を使用する実験では、「科学大好き(?)」少年・少女と思われる小・中学生たちが大勢詰めかけてくれ、三人の『科学者』たちは満足気に実験を披露していました。ゴムボールを冷却してかなづちで割るときなどは、他校を圧倒する喚声が会場内に響き渡りました。

今年始まったSPP事業ですが、その成果がこのような形で一般の方々に見ていただくことができ、学校としても大変喜ばしく思っています。最後になりますが、SPP事業推進に当たって常に生徒たちを温かく指導して下さった日本大学理工学部物理学科の先生方、SPP事業からコラボレーションまで終始尽力して下さった担当の新井茂雄先生に深く感謝の意を表します。

埼玉県立川口高等学校  
教頭 杉林正敏

以下に当日の発表の様子を紹介します。



SPP講座の内容を説明している様子です。



観客からの質問に答えている  
ところです。

演示実験に向けて、液体窒素  
の準備をしているところです。



膨らんだ風船を液体窒素で  
冷却しているところです。

液体窒素を入れた空き缶の周りに生じる液体が、液体酸素であることを説明しているところです。



液体窒素で冷却したゴムボールをかなづちで割る瞬間です。

大勢の人の前でも、楽しそうに発表をしていました。  
白衣姿が、とてもよく似合っていました。



今回発表に参加してくれたのは、今西孝太、片山優佑、高橋朋秋君の3名でした。この日の発表に向けて数回練習をしてきましたが、当日の出来が最も良かったです。彼らにとっては、とても貴重な体験になったことと思います。

発表当日には、SPPで大変お世話になった植松英穂先生(日本大学理工学部物理学科教授)も会場に訪れ、生徒たちの発表をあたたく見守ってくれました。また、本校の貳又保校長、杉林正敏教頭、生徒達の担任である稲津先生も会場に姿を見せ、発表を見学してくれました。